

【5-5】

重要伝統的建造物群保存地区内外における住民意識の相違-高岡市吉久における事例研究その2-

准会員 ○ 北野まつ葉*
准会員 亀山文音*
正会員 藪谷祐介**

重伝建 町並み 保全
まちづくり 住環境 歴史

1. 研究の背景と目的

前稿では、富山県高岡市吉久(以下、吉久)における住民全体の町並み保全意識、まちづくり活動への意識、生活満足度、目指すまちの姿を明らかにした。本稿では今後のまちづくりを効果的に実践していくために、重要伝統的建造物群保存地区(以下、重伝建)内外での、住民の町並み保全意識とまちづくり活動への意識、生活満足度、目指すまちの姿の相違について明らかにする。

2. 調査方法

前稿のアンケート結果を用いて重伝建内外別(図1)に各項目のクロス集計表を作成し分析を行う。



図1 重要伝統的建造物群保存地区の範囲
(高岡市HP掲載資料¹⁾を基に筆者作成)

3. 調査結果

3-1 回答者の属性

地区内外の回答者における属性の比較を行う(表1)。回答者の年齢について、地区内の「60歳以上」の割合は64.5%、「40、50代」は25.2%、地区外では「60歳以上」が51.9%、「40、50代」は34.2%、という結果であった。次に職業について、地区内では「主婦(夫)・無職」が48.5%、次いで「会社員」32.1%という結果に対し、地区外では「会社員」41.8%、「主婦(夫)・無職」が38.9%という順であった。住民の年齢層、職業から比較すると、地区内の住民の高齢化が著しいことが分かった。

次に出身地について、地区内の56.0%が「吉久」出身であり、地区外の39.5%に比べると割合が高い。一方、地区外では「高岡市出身(吉久以外)」が27.0%、「富山県

表1 地区内外の回答者の属性

		保存地区内		保存地区外		わからない		無回答	
		n	%	n	%	n	%	n	%
性別	男性	60	44.8%	229	47.8%	35	44.8%	8	42.1%
	女性	74	55.2%	250	52.2%	43	55.1%	11	57.9%
年代	10代	1	0.7%	8	1.7%	2	2.6%	0	0.0%
	20代	5	3.7%	25	5.2%	21	26.9%	1	5.3%
	30代	8	5.9%	34	7.1%	10	12.8%	0	0.0%
	40代	16	11.9%	71	14.8%	16	20.5%	4	21.1%
	50代	18	13.3%	93	19.4%	10	12.8%	1	5.3%
	60代	29	21.5%	90	18.8%	6	7.7%	3	15.8%
	70代	39	28.9%	109	22.7%	6	7.7%	3	15.8%
	80代	19	14.1%	50	10.4%	7	9.0%	7	36.8%
職業	会社員	43	32.1%	199	41.8%	42	54.5%	5	29.4%
	自営業	11	8.2%	29	6.1%	5	6.5%	0	0.0%
	公務員	1	0.7%	7	1.5%	3	3.9%	0	0.0%
	主婦(夫)・無職	65	48.5%	185	38.9%	15	19.5%	10	58.8%
	学生	1	0.7%	9	1.9%	4	5.2%	0	0.0%
	その他	13	9.7%	47	9.9%	8	10.4%	2	11.8%
	その他	8	6.1%	38	8.0%	5	6.8%	1	5.9%
家族構成	夫婦のみ	23	17.4%	91	19.2%	8	10.4%	2	11.8%
	夫婦+親	18	13.6%	45	9.5%	1	1.4%	0	0.0%
	夫婦+子	32	24.2%	117	24.7%	25	34.2%	6	35.3%
	自分+親	14	10.6%	59	12.4%	10	13.7%	1	5.9%
	自分+子	13	9.8%	26	5.5%	9	12.3%	1	5.9%
	三世帯	18	13.6%	94	19.8%	11	15.1%	6	35.3%
	その他	6	4.5%	4	0.8%	4	5.2%	0	0.0%
世帯主	世帯主である	60	44.8%	204	42.9%	22	29.7%	6	35.3%
	世帯主でない	74	55.2%	271	57.1%	52	70.3%	11	64.7%
出身地	吉久	75	56.0%	190	39.5%	28	36.4%	8	47.1%
	高岡市内(吉久以外)	24	17.9%	130	27.0%	24	31.2%	3	17.6%
	富山県(高岡市以外)	26	19.4%	132	27.4%	20	26.0%	6	35.3%
	国内(富山県以外)	6	4.5%	29	6.0%	4	5.2%	0	0.0%
国外	3	2.2%	0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%	
町内会	西町	23	17.0%	74	15.4%	15	19.2%	0	0.0%
	寺中町	36	26.7%	8	1.7%	3	3.8%	4	21.1%
	本町	40	29.6%	16	3.3%	2	2.6%	0	0.0%
	日の出町	30	22.2%	68	14.1%	10	12.8%	2	10.5%
	御蔵町	0	0.0%	76	15.8%	10	12.8%	8	42.1%
	第一町	0	0.0%	60	12.5%	9	11.5%	1	5.3%
	末広町	4	3.0%	35	7.3%	6	7.7%	1	5.3%
	さくら台	2	1.5%	144	29.9%	23	29.5%	3	15.8%
立地	放生津往來沿いである	112	85.5%	29	6.2%	7	9.3%	0	0.0%
	放生津往來沿いでない	8	6.1%	398	84.7%	29	38.7%	13	81.3%
	分からない	11	8.4%	43	9.1%	39	52.0%	3	18.8%
居住年数	5年未満	5	3.7%	35	7.3%	15	19.7%	0	0.0%
	5-9年	2	1.5%	19	4.0%	7	9.2%	0	0.0%
	10-19年	11	8.2%	59	12.3%	11	14.5%	1	5.9%
	20-29年	16	11.9%	143	29.7%	28	36.8%	4	23.5%
	30-49年	43	32.1%	122	25.4%	6	7.9%	7	41.2%
	50年以上	57	42.5%	103	21.4%	9	11.8%	5	29.4%
建築年代	江戸・明治	13	9.6%	0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%
	大正	2	1.5%	5	1.0%	0	0.0%	1	5.6%
	昭和(戦前)	10	7.4%	21	4.4%	3	3.9%	1	5.6%
	昭和(戦後)	64	47.4%	202	42.3%	17	22.1%	10	55.6%
	平成・令和	36	26.7%	231	48.4%	44	57.1%	6	33.3%
分からない	0	0.0%	10	7.4%	18	3.8%	12	15.6%	
所有形態	持家(土地付)	124	91.9%	415	87.2%	66	86.8%	7	87.5%
	持家(借地)	6	4.4%	55	11.6%	7	9.2%	1	12.5%
	借家・借地	4	3.0%	3	0.6%	2	2.6%	0	0.0%
	その他	1	0.7%	3	0.6%	1	1.3%	0	0.0%
自動車保有台数	1台	29	21.6%	88	18.3%	9	12.0%	2	50.0%
	2台	45	33.6%	174	36.3%	27	36.0%	0	0.0%
	3台以上	45	33.6%	198	41.3%	32	42.7%	1	25.0%
	持っていない	15	11.2%	20	4.2%	7	9.3%	1	25.0%

Differences in Residents' Attitudes Inside and Outside
the Important Preservation Districts for Groups of Traditional Buildings
-A Case Study of Yoshihisa, Takaoka City Part 2

KITANO Matsuha
KAMEYAMA Ayane
YABUTANI Yusuke

内（高岡市以外）」が 27.4%という結果で、地区外では吉久以外の富山県出身者の割合が高いことが分かった。

次に地区内外の建造物の属性についての比較を行う。住まいが「放生津往来(旧街道)沿いである」人は地区内で 85.5%、地区外では 6.2%、住宅の居住年数に関して、地区内では「30 年以上」の人が 74.6%、地区外では「29 年以下」の人が 53.3%という結果であった。吉久で生業が繁栄していた江戸・明治期から戦前までに建てられた建造物を集計すると、地区内で 18.5%、地区外では 5.4%であった。一方、平成以降に建設されたものは、地区内 26.7%、地区外は 48.4%という結果であった。伝統的な建造物は放生津往来沿いに集中し、その近辺が重伝建に選定されており、伝統的な建造物に住む住民は、吉久での居住年数が比較的長いことが明らかとなった。

自動車保有台数に関して、「2 台以下」では保有率の差はあまりないが、「3 台以上」になると、地区内 33.6%、地区外では 41.3%と差が表われる。また車両を保有していない割合は、地区内 11.2%、地区外では 4.2%と、地区内の自動車を保有していない割合が少し高い。

3-2 町並み保全に対する意識

地区内外での町並み保全に対する意識について分析する。「吉久の町並みを保全していくべきだと思うか」(図 2)という質問に対して、「思う・とても思う」と回答した人の割合は、地区内で 41.4%、地区外では 45.6%であった。地区外の方が吉久の町並みを保全していくべきと考える人の割合が高いことが分かった。次に「町並み保全に関連する活動への参加状況」(図 3)を問う質問では、「参加したことがある」と回答した人は地区内 37.8%、地区外では 15.3%という結果で、地区内の方が町並み保全に関連する活動への参加率が高い傾向にあることが分かった。次に「今後の吉久の町並み保全に関連する活動への参加意向」(図 4)を問う質問では、「協力したい」と回答した人は、地区内で 21.6%、地区外では 13.4%、「企画・運営に携わりたい」と回答した人は、地区内で 6.0%、地区外では 1.5%であった。また「協力したくない」と回答した人は、地区内で 14.2%、地区外では 17.1%という結果であり、今後の町並み保全活動への参加意向に関して、地区内の住民の方が協力的であることが分かった。

町並み保全に対する意識に関して地区内外で比較すると、地区外の住民の方が町並みを保全していくべきだと考えていることが明らかになった。しかし保全の対象となる建造物に実際に住む地区内の住民の方が、町並み保全に関連する活動に参加している傾向があり、今後の活動への参加意向についても、参加を希望する人の割合や、活動の企画・運営に携わりたいと考える人の割合が高いことが判明した。

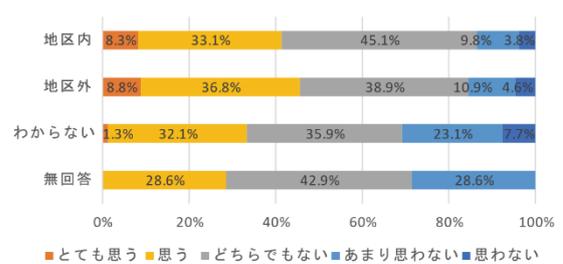


図2 吉久の町並みを保全していくべきだと思うか

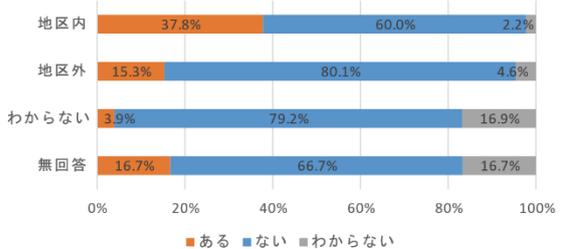


図3 吉久の町並み保全に関連する活動への参加状況

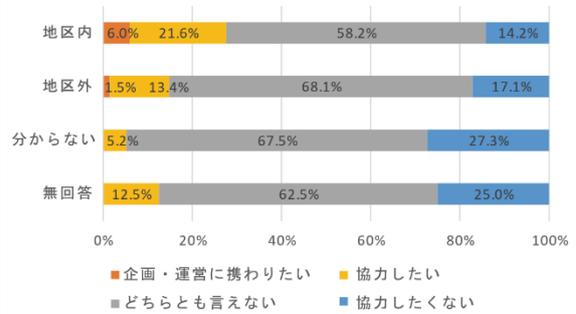


図4 吉久の町並み保全に関連する活動への参加意向

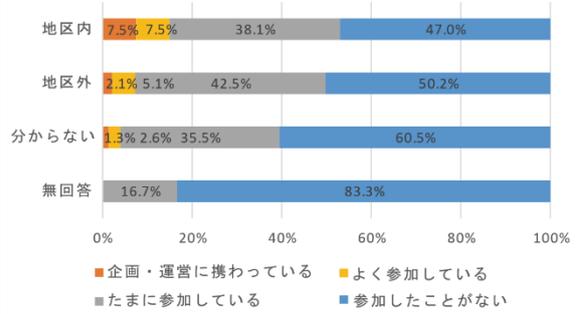


図5 地域活動・まちづくり活動への参加状況

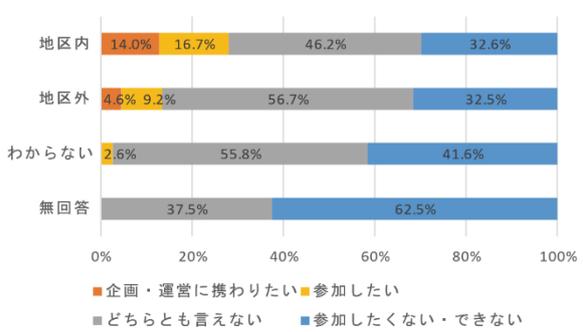


図6 地域活動・まちづくり活動への参加意向

3-3 まちづくり活動への意識

地区内外での、地域活動・まちづくり活動に対する意識について分析を行う。「これまでの地域活動・まちづくり活動への参加状況」(図 5)について、「企画・運営に

携わっている」と回答した人は、地区内で 7.5%、地区外では 2.1%、「よく参加している」と回答した人は、地区内で 7.5%、地区外では 5.1%という結果であった。一方、「参加したことがない」と答えた人は、地区内で 47.0%、地区外では 50.2%という結果であり、地区内の方が地域活動・まちづくり活動への参加率が高いことが分かった。また企画・運営に携わっている人の割合も地区内の方が高い。次に、「今後の地域活動・まちづくり活動への参加意向」(図 6)について「企画・運営に携わりたい」と回答した人は、地区内 14.0%、地区外では 4.6%と大きく差が表われた。「参加したい」と回答した人も、地区内で 16.7%、地区外では 9.2%といずれも地区内の方が今後の活動に参加を希望する人の割合が高い。「参加したくない・できない」と回答した人は、地区内外で差はあまり見られなかった。

地区全体として、これまでの地域活動・まちづくり活動への参加率は低いが、地区内の方が活動への参加率は高く、活動の主体である人の割合も高い。また今後の活動への参加意向に関しても、地区内の方が活動に対して積極的な姿勢が見受けられる。

3-4 生活満足度

現在の生活をもとに各項目の満足度を、高い順に「満足」5.0点、「少し満足」4.0点、「どちらでもない」3.0点、「少し不満」2.0点、「不満」1.0点として平均を算出し、地区内外別に満足度の調査を行った(図 7、図 8)。その結果「買い物の便利さ」、「交通の便利さ」、「町の歩きやすさ」、「医療・福祉の充実度」「生活環境としての満足度」の項目において地区内外での評価に差が見られた。「買い物の便利さ」では地区内 2.0点、地区外 2.1点、「交通の便利さ」では地区内 2.7点、地区外 2.9点、「町の歩きやすさ」では地区内 3.0点、地区外 3.2点、「医療・福祉の充実度」では地区内 2.3点、地区外 2.4点、「生活環境としての満足度」では地区内 3.0点、地区外 3.1点という結果であった。いずれの項目もわずかではあるが地区内の方が満足度の低い結果であり、地区内の方が利便性や生活のしやすさという点で評価が低い。

3-5 目指すまちの姿

今後吉久の目指すまちの姿を生活満足度と同様の方法で地区内外の平均を算出し、重要度の調査を行った(図 9、図 10)。その結果「買い物に便利なまち」、「交通が便利なまち」、「静かで暮らしやすいまち」、「観光客で賑わうまち」、「商業施設が多いまち」の 5 項目において地区内外の評価に差が見られた。特に差が顕著に表われた項目は、「観光客で賑わうまち」と「商業施設が多いまち」の 2 項目で、「観光客で賑わうまち」は地区内 2.2点、地区外 2.5点、「商業施設が多いまち」では地区内 2.4点、地区外 2.6点という結果であった。いずれの項目も 3.0点以下と重要度は低いが、地区内の方がより重要度が低

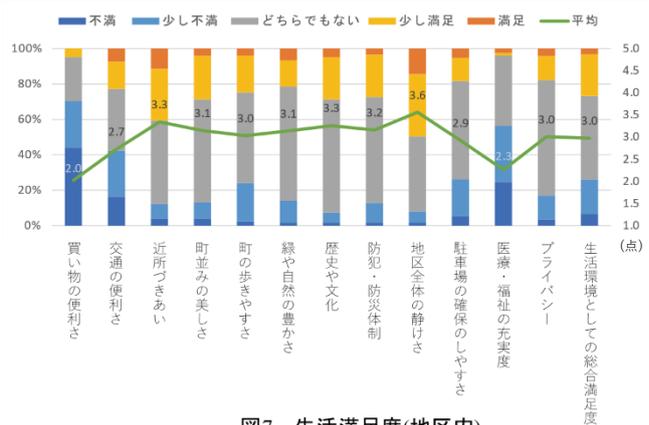


図7 生活満足度(地区内)

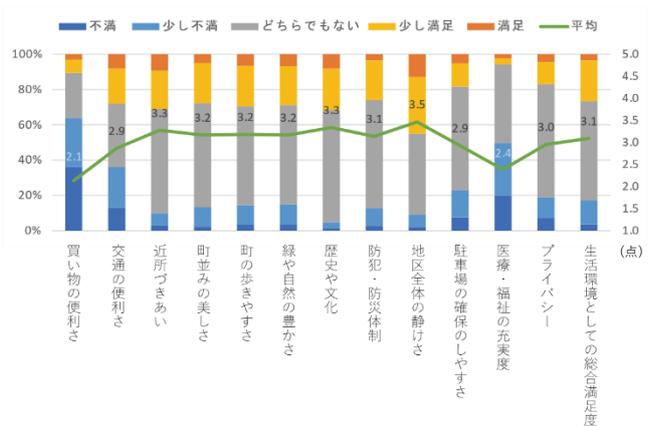


図8 生活満足度(地区外)

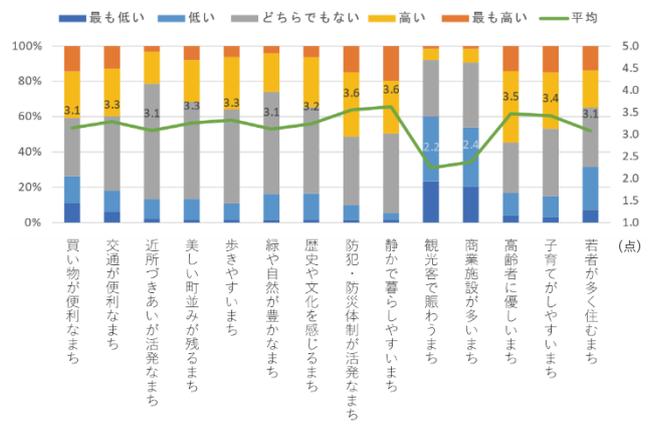


図9 目指すまちの姿(地区内)

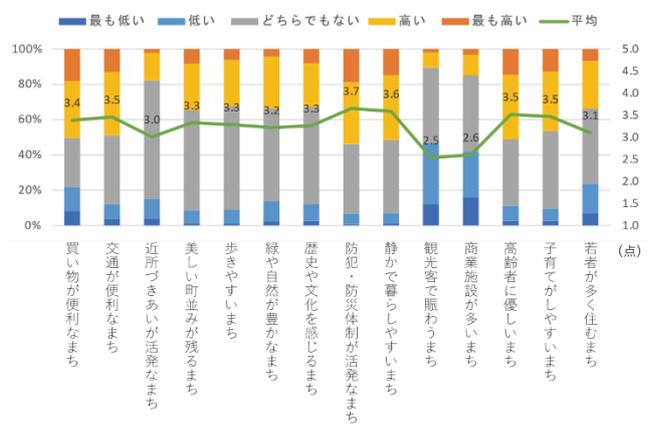


図10 目指すまちの姿(地区外)

い結果であった。「買い物に便利なまち」では、地区内 3.1 点、地区外 3.4 点、「交通が便利なまち」では、地区内 3.3 点、地区外 3.5 点と、地区外では買い物や交通における利便性が重視されていることが分かった。また、全ての項目のうち「近所づきあいが活発なまち」のみ地区内が地区外の平均点を上回る結果となった。

次に、「最も高い」と回答した人の割合に着目すると、「静かで暮らしやすいまち」は地区内で 26.5%、地区外で 14.9%という結果であった。地区内では生活の場としての環境が求められていることが分かる。

4 考察

4-1 回答者の属性

住民の年齢層、出身地、住居の立地、居住年数の特徴から、地区内では吉久での居住年数が長い高齢層が、放生津往来沿いに建つ伝統的な町家を所有し居住していると分析できる。また地区外では住民の年齢層、出身地、居住年数と建築年代の特徴から、新興住宅地が開発された平成以降、若年層が結婚を機に吉久に移住し新築の住宅を建て始めたことが考えられる。また伝統的な町家では外観を保持したまま、自動車を保有するための空間を増設することが容易ではないため、地区内で自動車を 3 台以上保有する割合が少なく、自動車を保有していない割合も高い調査結果となったことが考えられる。

4-2 町並み保全に対する意識

吉久の町並みを保全すべきと考える人の割合は地区外の方が高いことが分析から明らかとなったが、町並み保全に関連する活動への参加率は地区内の方が高い。実際に伝統的な建造物に住む人が町並み保全の主体であるため、町並みの良さだけで無く保全における問題や課題点などを理解し、町並み保全に対して現実的な意見を持っていることが考えられる。地区内外において町並みへの意識の差が存在することが浮き彫りとなった。

4-3 まちづくり活動に対する意識

吉久全体を通してまちづくり活動への参加率はあまり高くないものの、地区内の参加率の方が少し高い。高齢層の多い地区内の住民は、コミュニティの場を求め、より活動に積極的であることが考えられる。また地区内外での地域活動・まちづくり活動への参加状況から、活動を運営する団体を構成する年齢層も、高齢層が主体となっていることが考えられる。地区外の住民や若い世代の地域活動・まちづくり活動への参画が、今後吉久における持続性のあるまちづくりに繋がると言える。

4-4 生活満足度

吉久において、重伝建内の住民の方が生活に対する満足度が低いことが分析結果から判明した。地区内では放生津往来沿いの古い建造物に居住する人も多く、複数の

自動車を保有することが困難であることから、交通の不便性に繋がることが考えられる。また、放生津往来は車両の交通量が少なくないため、高齢層が多い地区内の住民にとっては、買い物や交通の便利さが乏しく、町の歩きやすさや医療・福祉の充実度に欠けるという評価が集まったことが考えられ、総合的な生活満足度も低い結果に繋がったと考察できる。

4-5 目指すまちの姿

今後の吉久が目指すまちの将来像のうち、地区内外で重要度の差が最も色濃く表れたのは、観光に関する項目であった。吉久は重伝建に選定されたものの、住民の多くは観光地化を望んでおらず、特に地区内の方が望まない声は強い。また地区内における吉久の将来像として、「静かで暮らしやすいまち」の重要度が高いことが今回の調査から明らかとなった。重伝建に選定されたことで、今後観光客がまちに訪れることが想定されるが、いかに住民の生活環境を維持していくかが課題である。

5 まとめ

本稿では重伝建内外での住民における、町並み保全意識とまちづくり活動への意識、生活満足度、目指すまちの姿の相違について明らかにした。

吉久の町並みを構成する古い町家は特に地区内に多く存在し、居住年数の長い高齢層が多く住んでいるため、地区内外で年齢層に差が見られる。地区外の住民は町並みに関して一定の関心はあるものの、保全活動への参加率は低く、当事者意識は低いことが今回の調査から判明した。町並みに対する評価だけでなく、保全における課題や問題点を、地区内外を通じて共有する必要がある。

現在吉久のまちづくり活動の企画・運営を行う組織は地区内の住民である割合が高いため、高齢層が多いことが考えられる。コミュニティの場を求め、活動に参加する人は高齢層が多いことが想定されるため、運営者・参加者の年齢層が偏る可能性がある。地区内において、「近所づきあいが活発なまち」を吉久の将来像として求めている現状を考えると、今後吉久で持続的なまちづくりを行うためには、地区外の若い世代を活動に引き入れ、地区内外で住民意識を共有していくことが求められる。そうすることで、吉久全体で同じ将来ビジョンを持ち、まちづくりに取り組むことが可能となり、地域に対する愛着と誇りを育むことに繋がる。

参考文献

- (1) 高岡市公式 HP ほっとホット高岡
<https://www.city.takaoka.toyama.jp/syoubun/kanko/bunka/jigyoyoshihisa.html> (最終閲覧日：2021.03.16)

*富山大学芸術文化学部 学部長

**富山大学学術研究部芸術文化学系 講師・博士(デザイン学)

Undergraduate, Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama

Lecturer, Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama, Doctor of Design